

令和4（2022）年度における一般廃棄物処理事業の概要

令和6年5月15日 岩手県環境生活部資源循環推進課

県では、環境省が全国の市区町村、一部事務組合及び広域連合を対象に実施している「一般廃棄物処理事業実態調査（令和4年度実績）」の調査結果に基づき、一般廃棄物（ごみ・し尿）の排出・処理状況、廃棄物処理事業経費及び一般廃棄物処理施設の整備状況等について、以下のとおり取りまとめました。

なお、端数処理の都合により、合計値が一致しない場合がありますので、あらかじめ御了承願います。

I ごみ処理

1 ごみの排出状況

（1）ごみ総排出量

令和4年度における県内のごみ総排出量は**392,513トン**で、対前年度比で**8,522トン（2.1%）減少**した。なお、この排出量は、東京ドームの1.1杯分、岩手県庁舎を枳に例えると15.4杯分に相当する。

また、**県民一人1日当たりごみ排出量は901g**で、前年度の908gから**7グラム減少**した。

※ごみ総排出量＝市町村等による計画収集量＋施設への直接搬入量＋集団回収量

※東京ドームの容積1,240千 m^3 、県庁の容積85千 m^3 （ごみの比重0.3トン/ m^3 として算出）

（2）生活系ごみ排出量

各家庭から排出された**生活系ごみ排出量は274,414トン**で、前年度比で**6,747トン（2.4%）減少**した。

また、**県民一人1日当たり生活系ごみ排出量は630g**で、前年度の637gから**7g（1.1%）減少**した。

（3）家庭系ごみ排出量

家庭系ごみとは、上記（2）の生活系ごみ排出量のうち、資源となるもの（資源ごみ及び集団回収量）を除いた量。**家庭系ごみ排出量は223,815トン**で、前年度比で**4,984トン（2.2%）減少**した。

また、**県民一人1日当たり家庭系ごみ排出量は514g**で、前年度の518gから**4g（0.8%）減少**した。

※家庭系ごみ排出量＝生活系ごみ排出量－（資源ごみ＋集団回収量）

（4）事業系ごみ排出量

スーパー等の小売店やオフィス、飲食店・宿泊施設といった事業所から排出された**事業系ごみ排出量は118,099トン**で、前年度比で**1,775トン（1.5%）減少**した。また、**県民一人1日当たり事業系ごみ排出量は271g**で、前年度と同量でした。

※事業系ごみ排出量は、事業所等から排出されるものであるが、全国との比較等のため、県民一人1日当たり換算して算出している。

表－１ ごみ排出量の推移

項目	年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
総人口(人)		1,291,352	1,279,875	1,266,552	1,252,038	1,238,207	1,223,946	1,209,697	1,193,904
ごみ排出量(t)		440,812	430,106	426,270	424,967	420,164	405,527	401,035	392,513
うち生活系ごみ(t)		302,791	294,613	291,350	290,037	288,386	285,440	281,161	274,414
うち家庭系ごみ(t)		238,725	233,823	231,995	231,398	232,255	232,430	228,799	223,815
うち事業系ごみ(t)		138,021	135,493	134,920	134,930	131,778	120,087	119,874	118,099
県民一人1日当たりごみ排出量(g)		933	921	922	930	927	908	908	901
うち生活系ごみ(g)		641	631	630	635	636	639	637	630
うち家庭系ごみ(g)		505	501	502	506	512	520	518	514
うち事業系ごみ(g)		292	290	292	295	291	269	271	271

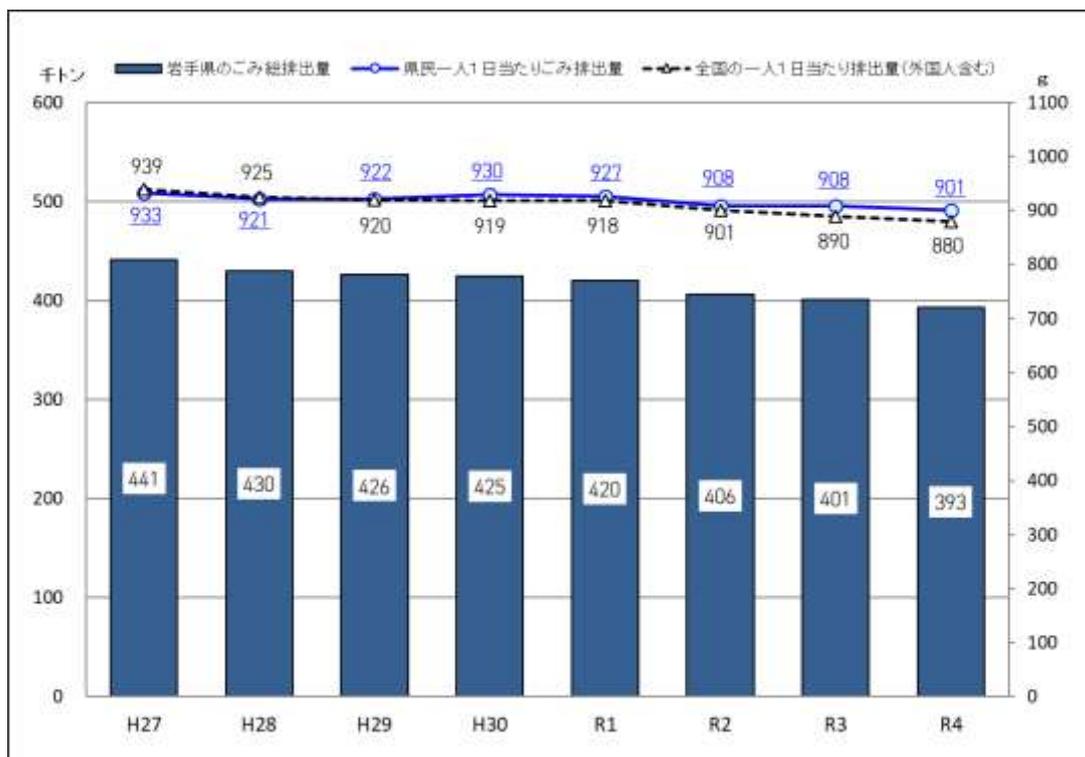
県では、平成31年3月に「いわて県民計画(2019～2028)」を、令和3年3月に「第三次岩手県循環型社会形成推進計画(R3～R7)」を策定し、“地域循環共生圏を3Rで支える持続可能ないわて”の形成を目指して、廃棄物の発生抑制(リデュース)及び再使用(リユース)を優先する2Rを基調としたライフスタイルへの転換を図ることとしている。

なお、いわて県民計画の「第2期アクションプラン」では、次のとおり指標を定めている。

■第2期アクションプランにおける指標

指標名	現状値	年度目標値			計画目標値
	R3	R5	R6	R7	R8
一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量(g)	520 ^(R2)	513 ^(R4)	507 ^(R5)	500 ^(R6)	493 ^(R7)

※右上に()を付した数値は表頭以外の年度の実績値を示しています



図－１ ごみ排出量と県民一人1日当たりごみ排出量の推移

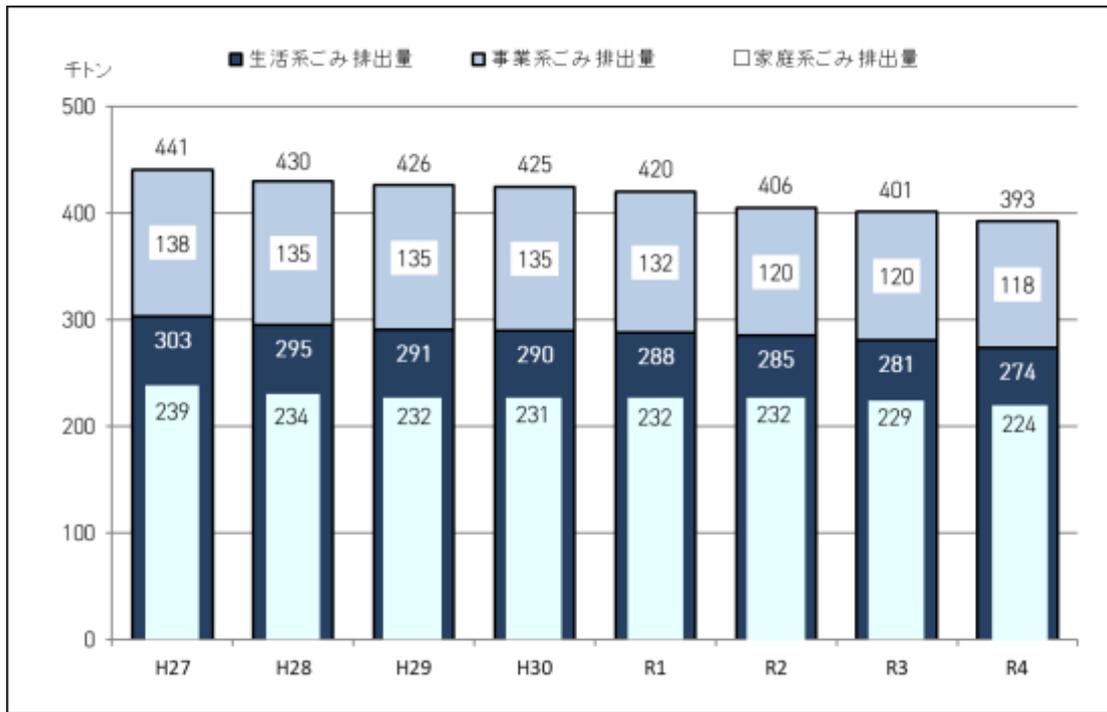


図-2 ごみの排出量の推移

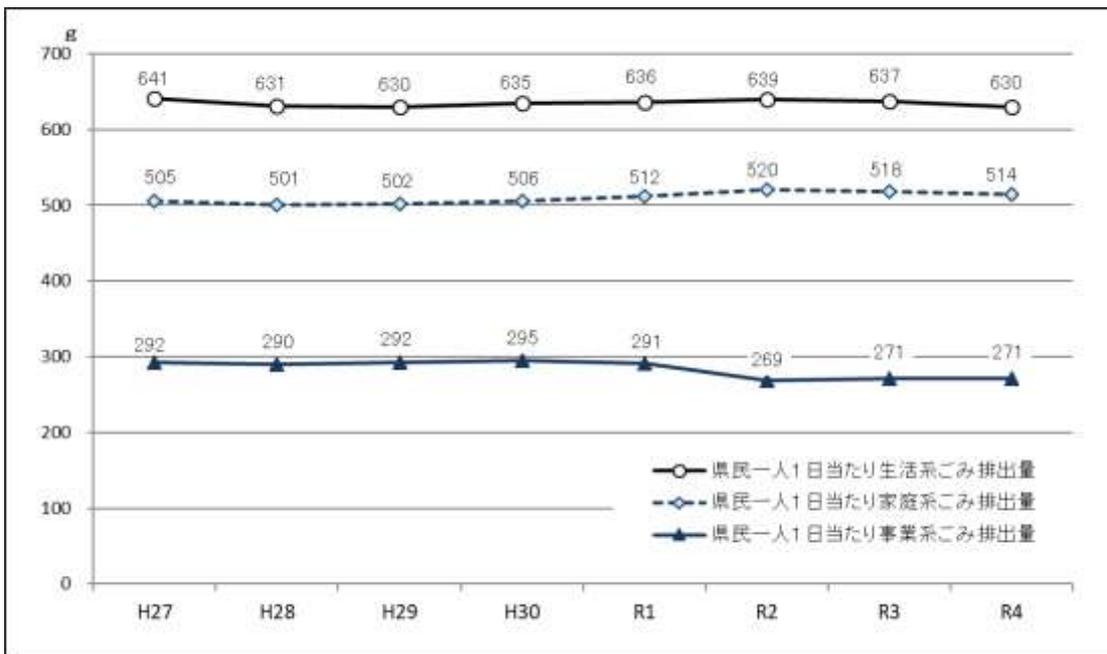


図-3 県民一人1日当たりごみ排出量の推移

(5) 各市町村における家庭系ごみの排出状況

県内33市町村のうち、一人1日当たり家庭系ごみ排出量が最も少なかったのは葛巻町の417グラムで、次いで紫波町の421グラム、金ヶ崎町と北上市の425グラムであった。

一方、一人1日当たり家庭系ごみ排出量が最も多かったのは八幡平市の683グラムで、次いで雫石町の657グラム、大船渡市の651グラムであった。

なお、北上市においては、平成20年12月から家庭ごみの手数料有料化事業を実施している。

表-2 市町村別一人1日当たり家庭系ごみ排出量（令和4年度）

市町村名	排出量(g)	市町村名	排出量(g)	市町村名	排出量(g)
盛岡市	474	八幡平市	683	住田町	589
宮古市	620	奥州市	516	大槌町	501
大船渡市	651	滝沢市	566	山田町	602
花巻市	463	雫石町	657	岩泉町	535
北上市	425	葛巻町	417	田野畑村	508
久慈市	626	岩手町	561	普代村	620
遠野市	507	紫波町	421	軽米町	430
一関市	527	矢巾町	463	野田村	547
陸前高田市	540	西和賀町	447	九戸村	513
釜石市	580	金ヶ崎町	425	洋野町	542
二戸市	603	平泉町	521	一戸町	463
				県平均	514

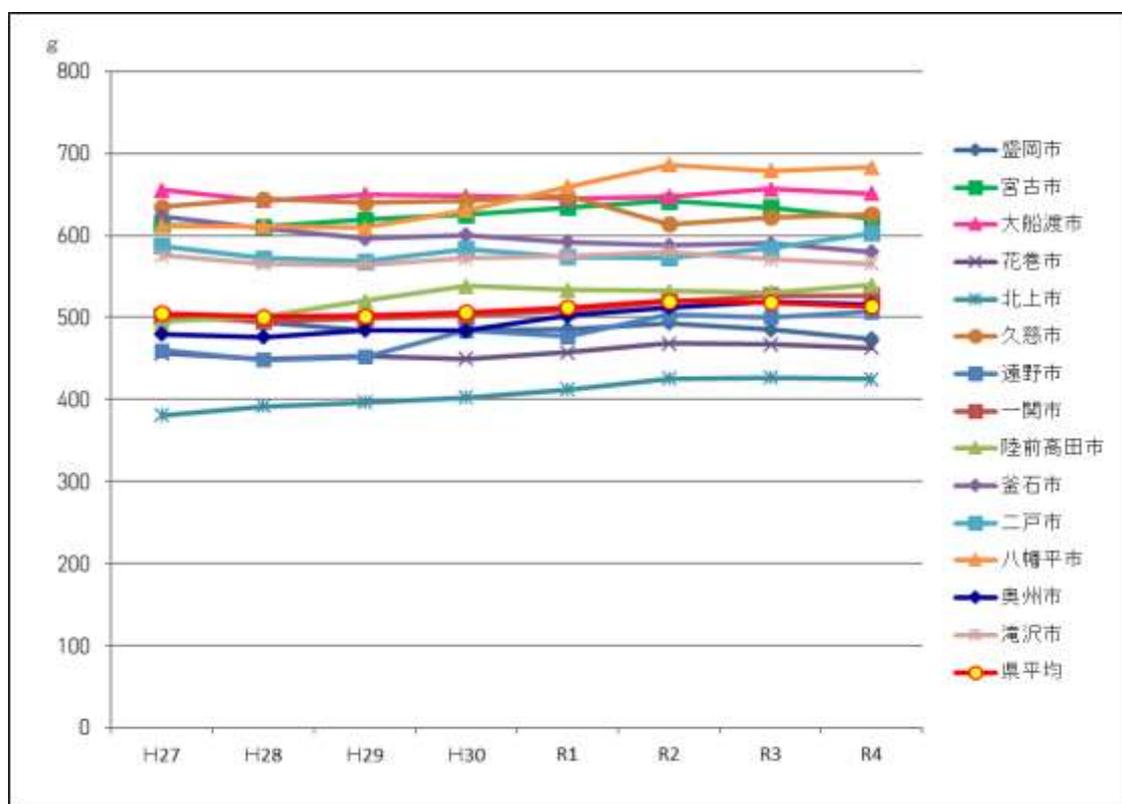


図-4 (1) 県民一人1日当たり家庭系ごみ排出量の推移（市部）

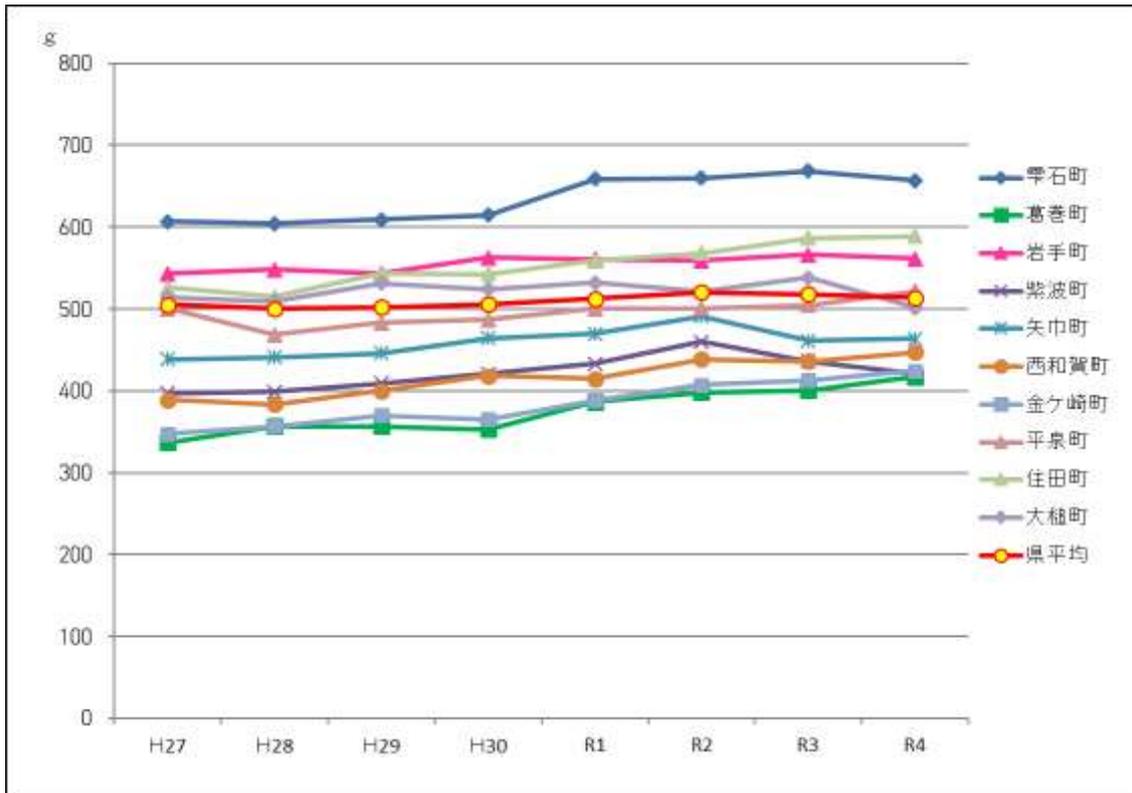


図-4 (2) 県民一人1日当たり家庭系ごみ排出量の推移 (町村部)

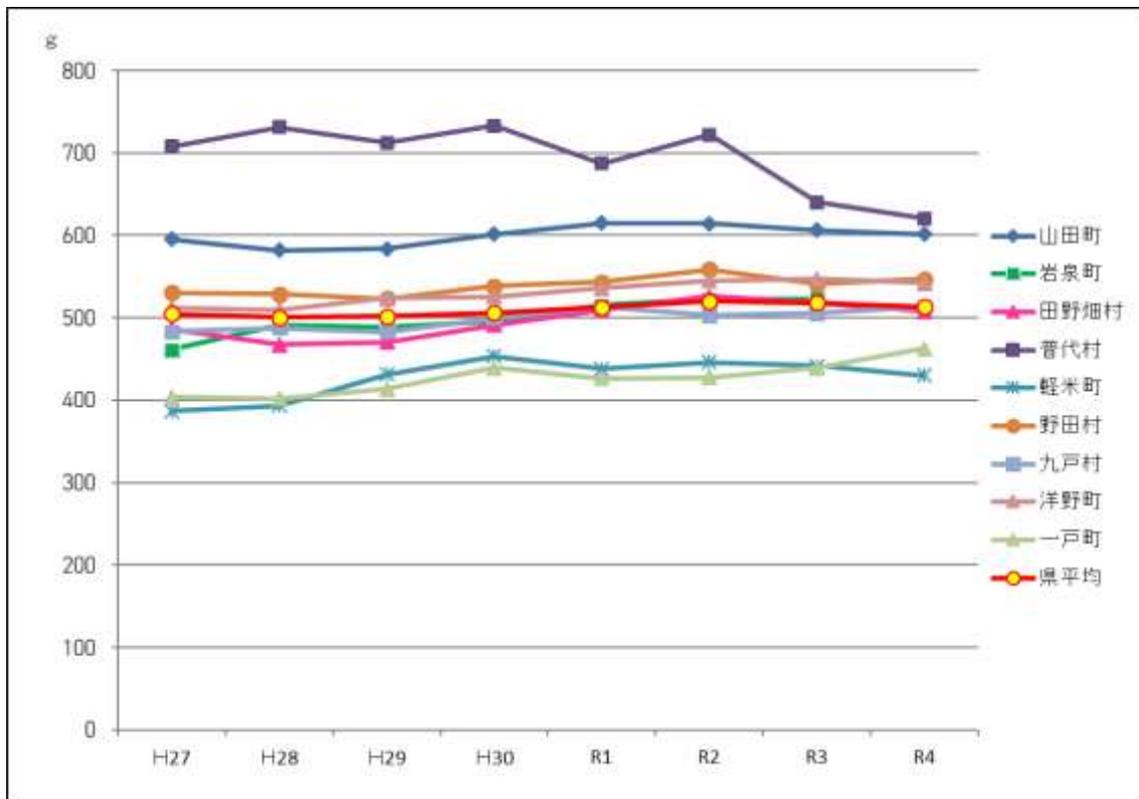


図-4 (3) 県民一人1日当たり家庭系ごみ排出量の推移 (町村部)

表-3 市町村別一人1日当たり家庭系ごみ排出量の推移

排出量	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
300g以下								
300g～350g	葛巻町 337 金ヶ崎町 347							
351g～400g	北上市 381 軽米町 387 西和賀町 389 紫波町 397	金ヶ崎町 357 葛巻町 357 西和賀町 383 北上市 392 軽米町 394 紫波町 399	葛巻町 356 金ヶ崎町 370 北上市 396 西和賀町 400	葛巻町 353 金ヶ崎町 365	葛巻町 386 金ヶ崎町 388	葛巻町 398	葛巻町 400	
401g～450g	一戸町 404 矢巾町 438	一戸町 402 矢巾町 441 遠野市 448 花巻市 449	紫波町 409 一戸町 414 軽米町 431 矢巾町 446	北上市 402 西和賀町 418 紫波町 421 一戸町 439 花巻市 450	北上市 412 西和賀町 415 一戸町 426 紫波町 433 軽米町 438	金ヶ崎町 407 北上市 426 一戸町 428 西和賀町 439 軽米町 446	金ヶ崎町 413 北上市 427 西和賀町 436 紫波町 436 一戸町 439 軽米町 442	葛巻町 417 紫波町 421 金ヶ崎町 425 北上市 425 軽米町 430 西和賀町 447
451g～500g	花巻市 456 遠野市 460 岩泉町 462 奥州市 480 九戸村 483 田野畑村 486 陸前高田市 495 平泉町 500	田野畑村 468 平泉町 468 奥州市 476 九戸村 488 岩泉町 492 盛岡市 494 一関市 496	遠野市 452 花巻市 452 田野畑村 471 九戸村 483 平泉町 483 奥州市 485 盛岡市 485 岩泉町 488 一関市 499	軽米町 453 矢巾町 464 奥州市 484 盛岡市 484 遠野市 484 平泉町 487 田野畑村 491 岩泉町 496 九戸村 500	花巻市 457 矢巾町 470 遠野市 477 盛岡市 486 平泉町 500	紫波町 460 花巻市 468 矢巾町 491 盛岡市 493	矢巾町 461 花巻市 467 盛岡市 485 遠野市 500	一戸町 463 花巻市 463 矢巾町 463 盛岡市 474
501g～550g	一関市 501 盛岡市 504 県平均 505 洋野町 512 大槌町 514 住田町 526 野田村 530 岩手町 543	県平均 501 陸前高田市 501 大槌町 509 洋野町 510 住田町 515 野田村 529 岩手町 548	県平均 502 陸前高田市 520 野田村 523 洋野町 524 大槌町 532 野田村 543 岩手町 544	一関市 502 県平均 506 大槌町 524 洋野町 525 陸前高田市 538 岩手町 539 住田町 543	奥州市 502 一関市 508 田野畑村 510 県平均 512 九戸村 513 岩泉町 515 大槌町 532 陸前高田市 533 洋野町 536 野田村 543	平泉町 501 九戸村 503 遠野市 503 奥州市 512 一関市 520 県平均 520 大槌町 521 岩泉町 522 田野畑村 526 陸前高田市 532 洋野町 545	平泉町 505 九戸村 506 田野畑村 518 県平均 518 奥州市 519 岩泉町 523 一関市 527 陸前高田市 530 大槌町 538 野田村 541 洋野町 547	大槌町 501 遠野市 507 田野畑村 508 九戸村 513 県平均 514 奥州市 516 平泉町 521 一関市 527 岩泉町 535 陸前高田市 540 洋野町 542 野田村 547
551g～600g	滝沢市 576 二戸市 587 山田町 596	滝沢市 565 二戸市 572 山田町 582	滝沢市 564 二戸市 568 山田町 584 釜石市 596	岩手町 563 滝沢市 572 二戸市 583 釜石市 600	住田町 559 岩手町 561 二戸市 574 滝沢市 575 釜石市 592	野田村 559 岩手町 559 住田町 568 二戸市 572 滝沢市 580 釜石市 588	岩手町 566 滝沢市 571 二戸市 584 住田町 587 釜石市 590	岩手町 561 滝沢市 566 釜石市 580 住田町 589
601g～650g	雫石町 607 八幡平市 611 宮古市 612 釜石市 623 久慈市 634	雫石町 604 釜石市 608 宮古市 610 八幡平市 611 大船渡市 643 久慈市 644	雫石町 609 八幡平市 610 宮古市 619 久慈市 639 大船渡市 650	山田町 601 雫石町 615 宮古市 625 八幡平市 631 久慈市 642 大船渡市 648	山田町 615 宮古市 634 大船渡市 645 久慈市 648	久慈市 614 山田町 615 宮古市 642 大船渡市 647	山田町 607 久慈市 622 宮古市 634 普代村 640	山田町 602 二戸市 603 普代村 620 宮古市 620 久慈市 626
651g～700g	大船渡市 655				雫石町 659 八幡平市 660 普代村 687	雫石町 660 八幡平市 686	大船渡市 656 雫石町 669 八幡平市 679	大船渡市 651 雫石町 657 八幡平市 683
701g以上	普代村 708	普代村 731	普代村 712	普代村 733		普代村 722		

(6) ごみの収集区分別排出量

令和4年度におけるごみの収集区分別の排出量は、「可燃ごみ」が最も多く全体の74.3%を占めている。可燃ごみ以外では、「資源ごみ」が9.9%、「不燃ごみ」と「粗大ごみ」で4.0%となっており、この構成比は、ほぼ横ばいで推移している。

表-4 ごみの収集区分別の推移

年度	H27 (2015)		H28 (2016)		H29 (2017)		H30 (2018)		R1 (2019)		R2 (2020)		R3 (2021)		R4 (2022)	
	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比
可燃ごみ	308,239	73.4	304,819	74.4	301,944	74.2	298,982	73.6	297,722	73.9	286,428	73.2	286,566	74.0	282,153	74.3
不燃ごみ	13,633	3.3	13,020	3.2	12,655	3.1	12,507	3.1	12,146	3.0	12,480	3.2	11,985	3.1	11,474	3.0
資源ごみ	43,138	10.3	41,158	10.0	40,572	10.0	40,289	9.9	39,161	9.7	38,868	9.9	38,492	9.9	37,418	9.9
粗大ごみ	3,568	0.9	3,478	0.8	3,471	0.9	3,719	0.9	3,693	0.9	4,048	1.0	4,068	1.0	3,906	1.0
その他	12,306	2.9	11,819	2.9	11,377	2.8	11,041	2.7	10,556	2.6	9,926	2.5	9,702	2.5	9,383	2.5
直接搬入ごみ	38,556	9.2	35,633	8.7	37,078	9.1	39,731	9.8	39,618	9.8	39,730	10.1	36,639	9.5	35,277	9.3
合計	419,440	100.0	409,927	100.0	407,097	100.0	406,269	100.0	402,896	100.0	391,480	100.0	387,452	100.0	379,611	100.0

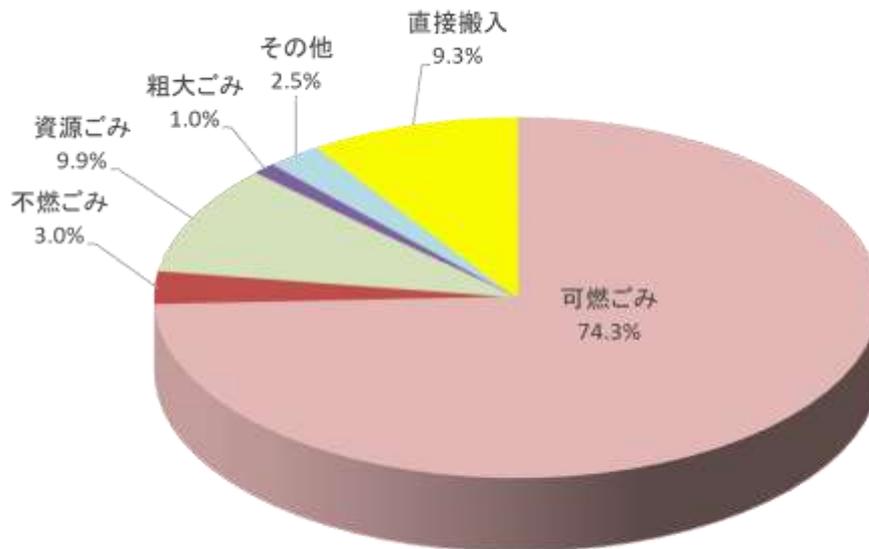


図-5 ごみの収集区分別排出量の割合（令和4年度）



図-6 ごみの収集区分別排出量の推移

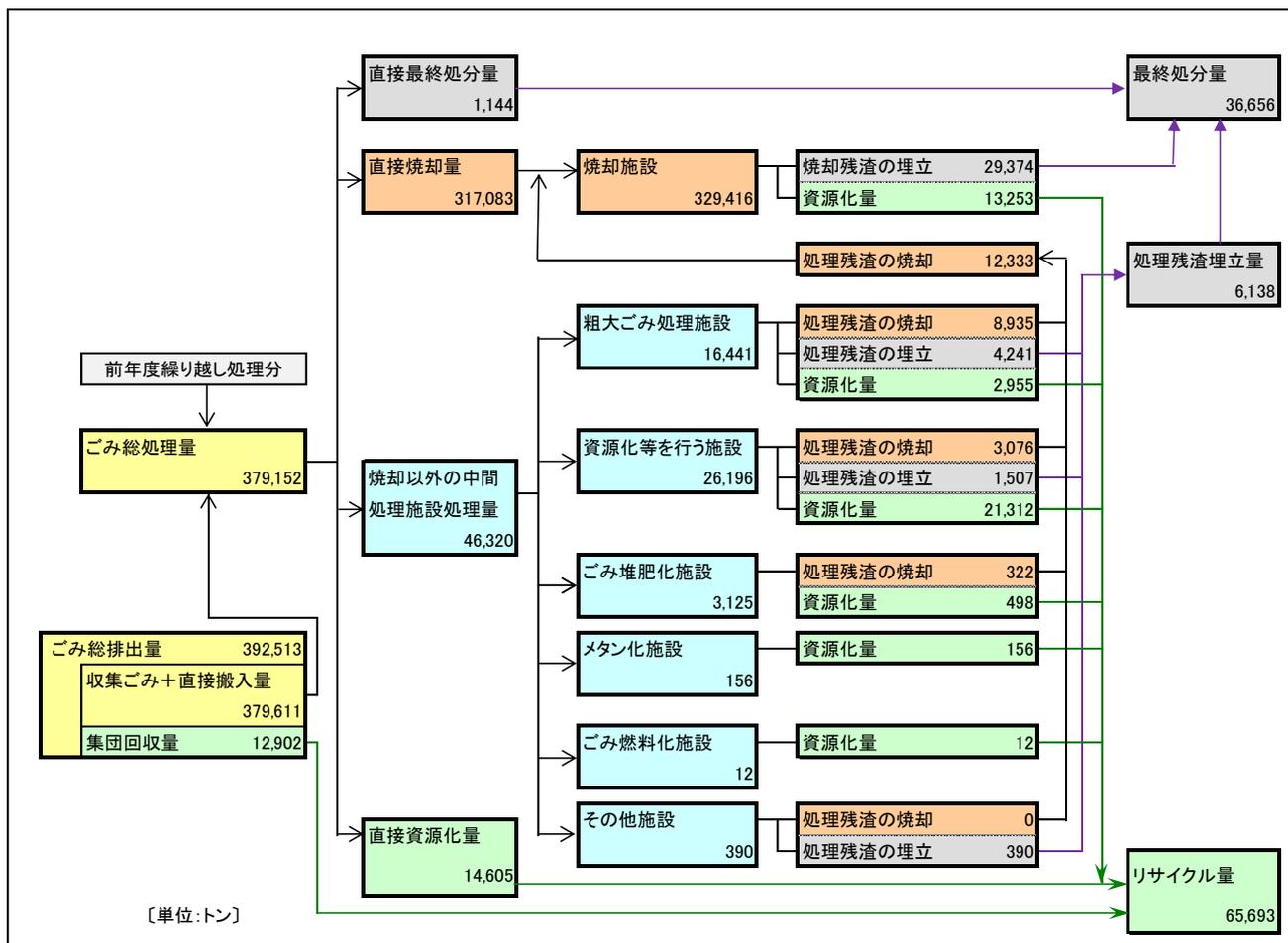
2 ごみの処理状況

(1) ごみの処理状況

排出されたごみの処理の流れはフロー図（図－7）のとおり。

ごみ総処理量は379,152トンであり、そのうち、焼却、破碎・選別等により中間処理された量（中間処理量）は363,403トン（95.8%）、再生業者等へ直接搬入された量（直接資源化量）は14,605トン（3.9%）で、この両者でごみの総処理量の99.7%を占める。

※ごみ総処理量＝直接最終処分＋直接焼却＋焼却以外の中間処理施設＋直接資源化



図－7 ごみ処理フロー図（令和4年度）

表－5 ごみ処理量の推移

項目	年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
ごみ総処理量		418,870	409,372	406,963	405,859	402,930	391,598	387,365	379,152
直接焼却量		348,857	342,876	341,022	338,407	336,964	325,629	322,901	317,083
直接最終処分量		1,740	1,590	1,789	2,057	1,727	1,204	1,165	1,144
焼却以外の中間処理施設処理量		50,630	48,512	48,093	49,638	49,265	49,854	48,301	46,320
直接資源化量		17,643	16,394	16,059	15,757	14,974	14,911	14,998	14,605

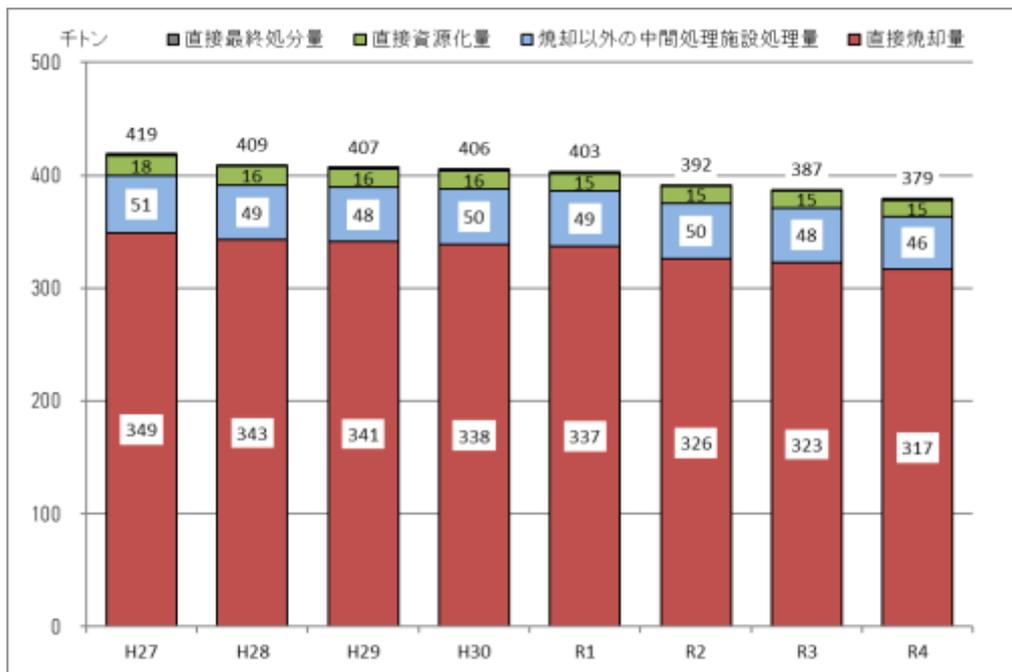


図-8 ごみの処理の推移

(2) 焼却処理量・最終処分量の状況

焼却施設処理量は329,416トンで前年度から6,132トン（1.8%）減少、最終処分量は36,656トンで前年度から749トン（2.0%）減少した。なお、最終処分量36,656トンは、岩手県庁舎を枡に例えると0.5杯分に相当する（埋立てごみの比重0.8トン/㎡として算出）。

また、環境負荷の大きい焼却・最終処分量（焼却施設資源化量と焼却残渣埋立量を除く）は、323,445トンで前年度から5,396トン（1.6%）減少し、県民一人1日当たり焼却・最終処分量は742グラムで前年度の745グラムよりも3グラム減少した。

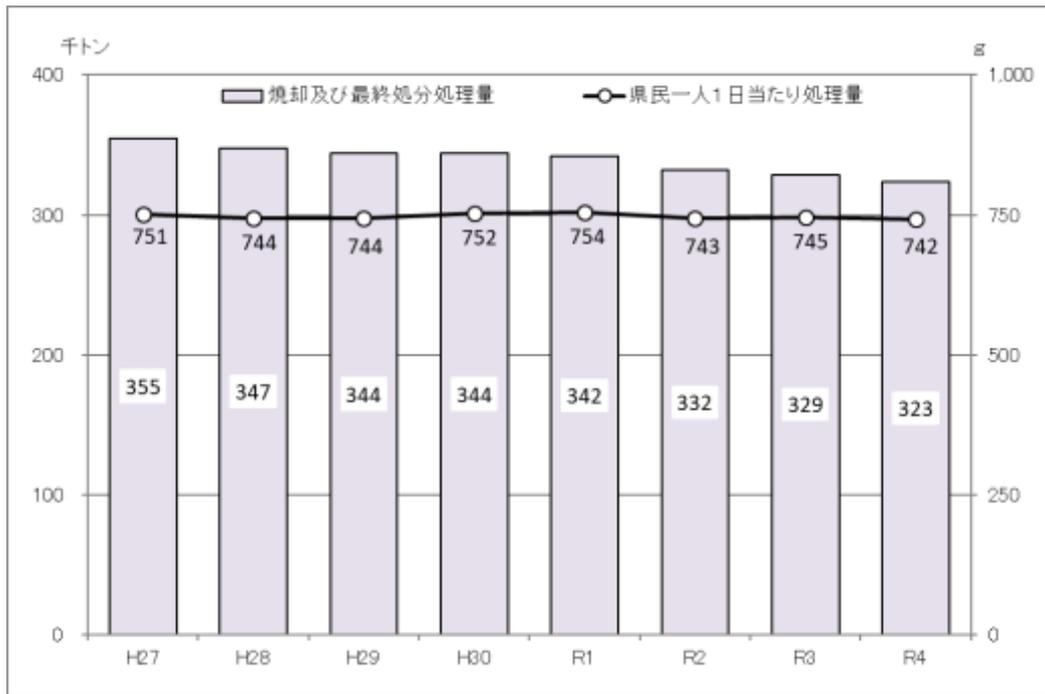
表-6 焼却・最終処分量の推移

項目	年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
焼却施設処理量(t)		360,685	353,939	352,503	351,040	349,562	339,135	335,548	329,416
最終処分量(t)		44,939	40,609	40,788	41,305	41,265	37,829	37,405	36,656
焼却・最終処分処理量(t)		354,880	347,379	343,774	343,689	341,713	331,774	328,841	323,445
県民一人1日当たり焼却・最終処分量(g)		751	744	744	752	754	743	745	742

■第2期アクションプランにおける指標

指標名	現状値	年度目標値			計画目標値
	R3	R5	R6	R7	R8
一般廃棄物の最終処分量(千トン)	37.8 ^(R2)	37.0 ^(R4)	36.6 ^(R5)	36.2 ^(R6)	35.8 ^(R7)

※右上に（ ）を付した数値は表頭以外の年度の実績値を示しています



図－9 焼却及び最終処分量の推移

(3) リサイクルの状況

リサイクル量は65,693トンで、前年度から3,067トン(4.5%)減少した。県民一人当たりの年間リサイクル量は、55.0キログラムで、前年度から1.8キログラム減少し、ここ数年減少傾向にある。

また、リサイクル率は16.8%で、前年より0.3ポイント下降した。

なお、リサイクル率は、近年はほぼ横ばいで推移している。

※リサイクル量＝直接資源化量＋中間処理後再生利用量＋集団回収量

※リサイクル率＝リサイクル量／(ごみ総処理量＋集団回収量)

表－7 リサイクル量の推移

項目	年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
リサイクル量(t)		81,595	77,751	78,609	77,228	73,956	70,998	68,760	65,693
直接資源化量(t)		17,643	16,394	16,059	15,757	14,974	14,911	14,998	14,605
中間処理後再生利用量(t)		42,580	41,178	43,377	42,773	41,714	42,040	40,179	38,186
集団回収量(t)		21,372	20,179	19,173	18,698	17,268	14,047	13,583	12,902
県民一人当たり年間リサイクル量(kg)		63.2	60.7	62.1	61.7	59.7	58.0	56.8	55.0
リサイクル率(%)		18.5	18.1	18.4	18.2	17.6	17.5	17.1	16.8

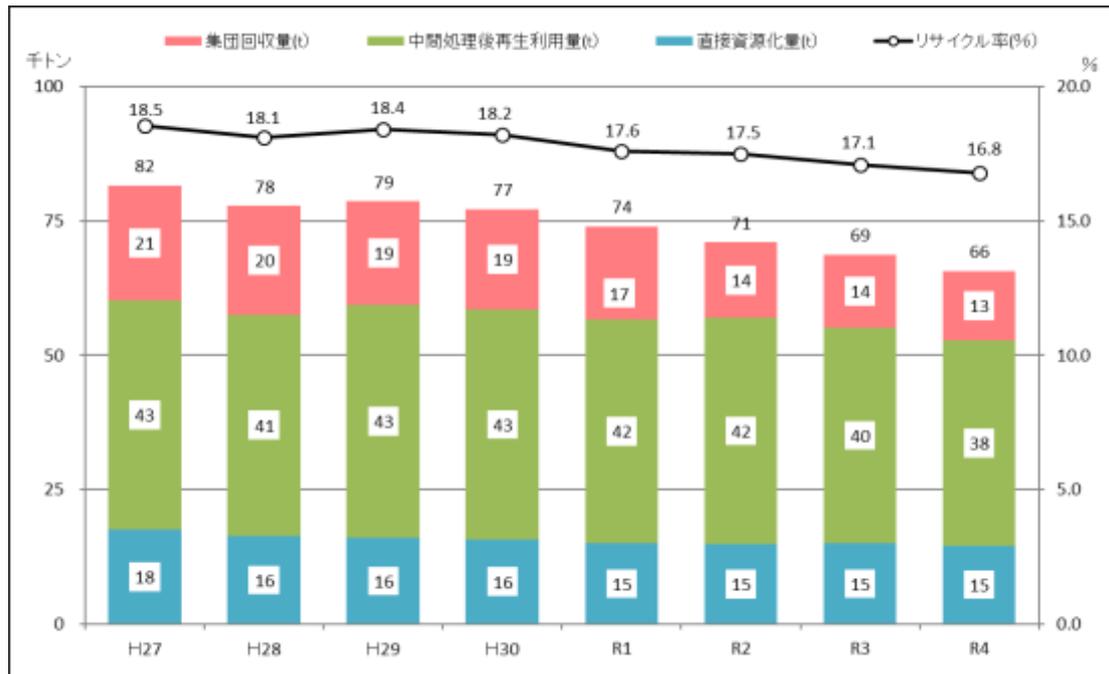


図-10 リサイクル量及びリサイクル率の推移

(4) 各市町村におけるリサイクルの状況

県内33市町村のうち、リサイクル率が最も高かったのは岩泉町の33.4%で、次いで田野畑村の31.1%、葛巻町の28.0%であった。

一方、リサイクル率が最も低かったのは奥州市の9.1%で、次いで八幡平市の10.3%、金ヶ崎町と久慈市の11.1%であった。

リサイクル率は、焼却施設が熔融炉の場合、熔融スラグやメタルがリサイクル資材として活用されるため、全体的にみると熔融炉で処理を行っている市町村においてリサイクル率が高い傾向にある。

また、岩手中部広域行政組合や一関地区広域行政組合では、焼却後の処理残渣をセメント工場に搬入しリサイクルを行っている。

表-8 各市町村のリサイクル率・一人当たり年間リサイクル量(令和4年度)

市 部			町 村 部					
市名	リサイクル率 (%)	1人当たり年間リサイクル量 (kg)	町村名	リサイクル率 (%)	1人当たり年間リサイクル量 (kg)	町村名	リサイクル率 (%)	1人当たり年間リサイクル量 (kg)
盛岡市	15.4	53.3	雫石町	21.6	88.3	軽米町	13.7	30.0
宮古市	11.8	44.7	葛巻町	28.0	84.4	野田村	12.9	38.0
大船渡市	18.0	48.9	岩手町	15.2	45.9	九戸村	11.6	28.4
花巻市	19.9	64.3	紫波町	20.7	61.8	洋野町	12.4	33.5
北上市	22.5	64.2	矢巾町	19.8	84.2	一戸町	24.8	71.1
久慈市	11.1	40.4	西和賀町	20.0	61.4	県平均	16.8	55.0
遠野市	27.0	86.0	金ヶ崎町	11.1	31.2			
一関市	16.9	51.4	平泉町	13.8	39.3			
陸前高田市	22.3	61.8	住田町	23.1	54.8			
金石市	19.6	76.3	大槌町	26.3	84.9			
二戸市	13.6	45.5	山田町	12.8	41.2			
八幡平市	10.3	42.2	岩泉町	33.4	136.4			
奥州市	9.1	29.7	田野畑村	31.1	113.8			
滝沢市	21.7	67.8	普代村	12.0	40.0			

表-9 各市町村のリサイクル率の推移

リサイクル率	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
40%以上								
35~40%	岩泉町 35.5 葛巻町 35.2							
30~35%		岩泉町 33.6 大槌町 32.1 葛巻町 32.0	岩泉町 33.2 住田町 32.1 葛巻町 30.0	住田町 32.6 岩泉町 32.6 葛巻町 30.9	住田町 31.1 岩泉町 30.9	岩泉町 31.9	岩泉町 33.7 葛巻町 30.9 田野畑村 30.2	岩泉町 33.4 田野畑村 31.1
25~30%	滝沢市 29.7 住田町 29.2 大槌町 28.7 紫波町 28.5 一戸町 27.7 雫石町 27.4 矢巾町 25.8 遠野市 25.2 陸前高田市 25.1	遠野市 28.7 一戸町 28.3 住田町 27.4 北上市 26.1 田野畑村 25.3	大槌町 28.5 一戸町 28.4 遠野市 28.2 滝沢市 26.9 雫石町 26.6 北上市 25.7 田野畑村 25.1	大槌町 29.1 遠野市 27.4 北上市 26.7 滝沢市 26.4 田野畑村 26.1 雫石町 25.8	葛巻町 29.9 大槌町 29.4 遠野市 28.7 一戸町 26.8 田野畑村 26.3 滝沢市 25.7 雫石町 25.4 北上市 25.2	大槌町 29.8 田野畑村 29.7 住田町 29.2 葛巻町 29.0 遠野市 27.5 一戸町 26.9	遠野市 27.2 一戸町 27.2 住田町 25.4 大槌町 26.3	葛巻町 28.0 遠野市 27.0 大槌町 26.3
20~25%	田野畑村 24.1 北上市 22.2 釜石市 21.9 軽米町 20.9	滝沢市 24.7 雫石町 24.3 陸前高田市 24.1 花巻市 22.5 釜石市 22.3 西和賀町 22.3 紫波町 22.2 大船渡市 20.5	紫波町 24.9 陸前高田市 24.9 釜石市 22.9 矢巾町 22.8 花巻市 22.4 西和賀町 21.6 大船渡市 21.3	一戸町 24.4 陸前高田市 23.5 釜石市 22.9 紫波町 22.6 花巻市 21.6 西和賀町 21.2 大船渡市 20.9 矢巾町 20.0	陸前高田市 23.0 花巻市 21.8 紫波町 21.5 釜石市 21.5 西和賀町 21.2 大船渡市 20.2	滝沢市 24.8 雫石町 24.4 陸前高田市 24.0 釜石市 23.1 北上市 23.0 大船渡市 21.9 紫波町 20.6 花巻市 20.5 西和賀町 20.3	大槌町 24.9 北上市 23.3 陸前高田市 22.7 滝沢市 22.1 雫石町 21.9 花巻市 20.7 紫波町 20.6 西和賀町 20.6 釜石市 20.4	一戸町 24.8 住田町 23.1 北上市 22.5 陸前高田市 22.3 滝沢市 21.7 雫石町 21.6 紫波町 20.7 西和賀町 20.6 釜石市 20.4
15~20%	大船渡市 19.7 県平均 18.5 花巻市 18.2 西和賀町 17.8 盛岡市 17.6 金ヶ崎町 16.5 一関市 15.8	矢巾町 19.3 軽米町 19.2 県平均 18.1 盛岡市 16.1 一関市 15.5 一関市 15.1	軽米町 18.8 県平均 18.4 盛岡市 16.7 一関市 15.0	県平均 18.2 軽米町 18.1 一関市 16.8 盛岡市 16.2	矢巾町 18.9 県平均 17.6 一関市 16.0 盛岡市 15.6	矢巾町 18.3 県平均 17.5 一関市 16.8 盛岡市 15.7	矢巾町 19.3 大船渡市 19.1 県平均 17.1 一関市 17.0 盛岡市 15.6 岩手町 15.1	西和賀町 20.0 花巻市 19.9 矢巾町 19.8 釜石市 19.6 大船渡市 18.0 一関市 16.9 県平均 16.8 盛岡市 15.4 岩手町 15.2
10~15%	宮古市 14.4 二戸市 14.3 山田町 14.2 岩手町 14.0 野田村 11.9 奥州市 11.8 八幡平市 11.5 洋野町 10.9 久慈市 10.6 普代村 10.4 平泉町 10.1	岩手町 14.1 二戸市 14.1 宮古市 14.0 平泉町 13.9 山田町 13.8 奥州市 11.5 八幡平市 11.3 洋野町 10.9 野田村 10.3 久慈市 10.3	岩手町 14.7 金ヶ崎町 14.6 二戸市 14.4 山田町 13.6 野田村 13.2 野田村 12.8 洋野町 11.8 普代村 11.4 奥州市 11.3 久慈市 11.2 八幡平市 11.2	岩手町 14.7 平泉町 14.5 二戸市 14.0 山田町 13.3 野田村 13.2 野田村 12.8 金ヶ崎町 12.4 宮古市 12.3 普代村 11.7 久慈市 11.4 八幡平市 10.9 奥州市 10.7	岩手町 14.3 二戸市 13.8 軽米町 14.1 山田町 13.2 野田村 12.9 普代村 12.8 宮古市 12.5 洋野町 12.2 久慈市 11.5 平泉町 10.7 八幡平市 10.5 奥州市 10.2	平泉町 14.5 岩手町 14.4 山田町 14.1 二戸市 13.9 山田町 13.0 野田村 12.9 普代村 12.7 宮古市 12.5 洋野町 12.5 金ヶ崎町 11.9 久慈市 11.9 八幡平市 11.9	平泉町 14.5 二戸市 13.9 山田町 13.4 野田村 13.4 山田町 13.0 野田村 12.9 普代村 12.5 宮古市 12.1 久慈市 11.7 金ヶ崎町 11.7 八幡平市 10.4 九戸村 10.3	平泉町 13.8 軽米町 13.7 二戸市 13.6 野田村 12.9 山田町 12.8 洋野町 12.4 普代村 12.0 宮古市 11.8 九戸村 11.6 久慈市 11.1 金ヶ崎町 11.1 八幡平市 10.3
10%未満	九戸村 9.2	普代村 9.4 九戸村 9.1	平泉町 9.7 九戸村 9.2	九戸村 9.3	九戸村 9.5	奥州市 9.9 九戸村 9.8	奥州市 9.9	奥州市 9.1

(単位:%)

(5) 品目別リサイクル量

リサイクル量65,693トンについて、品目別の割合をみると、紙類(古紙)が39.5%で最も多く、次いで金属類の14.5%、ガラス類の12.0%、溶融スラグの9.7%となっている。

※溶融スラグは、廃棄物を高温で溶融したものを冷却し固化させたもので、主に建設・土木資材としてリサイクルされている。

表-10 品目別のリサイクル量の推移

(単位:トン)

品目	年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
紙類		35,625	33,493	32,230	31,931	29,941	27,033	26,924	25,965
紙パック		204	208	206	207	240	179	167	162
紙製容器包装		1,516	1,327	1,293	1,304	1,265	1,269	1,058	1,125
金属類		11,353	10,759	10,883	10,840	10,605	11,485	10,607	9,544
ガラス類		11,161	10,414	10,155	9,557	8,798	8,577	8,247	7,866
ペットボトル		2,593	2,623	2,647	2,889	2,826	2,745	2,893	2,866
白色トレイ		51	46	49	52	47	49	51	45
容器包装プラスチック類		3,830	3,926	4,123	4,182	4,124	4,356	4,553	4,584
プラスチック類		29	22	26	38	37	27	37	
製品プラスチック類									5
その他プラスチック類									39
布類		871	564	519	524	541	328	203	182
肥料		1,011	870	836	882	733	668	480	420
熔融スラグ		10,480	7,437	9,385	8,021	7,508	7,596	6,496	6,372
燃料		16	16	16	15	12	11	11	6
セメント原料化		1,904	5,019	5,104	5,605	6,233	5,530	5,992	5,445
セメント工場直投		240	232	230	226	224	262	209	193
廃食用油		33	34	28	34	33	47	25	21
その他		678	760	879	921	789	836	807	853
合計		81,595	77,751	78,609	77,228	73,956	70,998	68,760	65,693

※「プラスチック類」は、令和4年度実績調査から「製品プラスチック類」と「その他プラスチック類」に項目が分けられました。

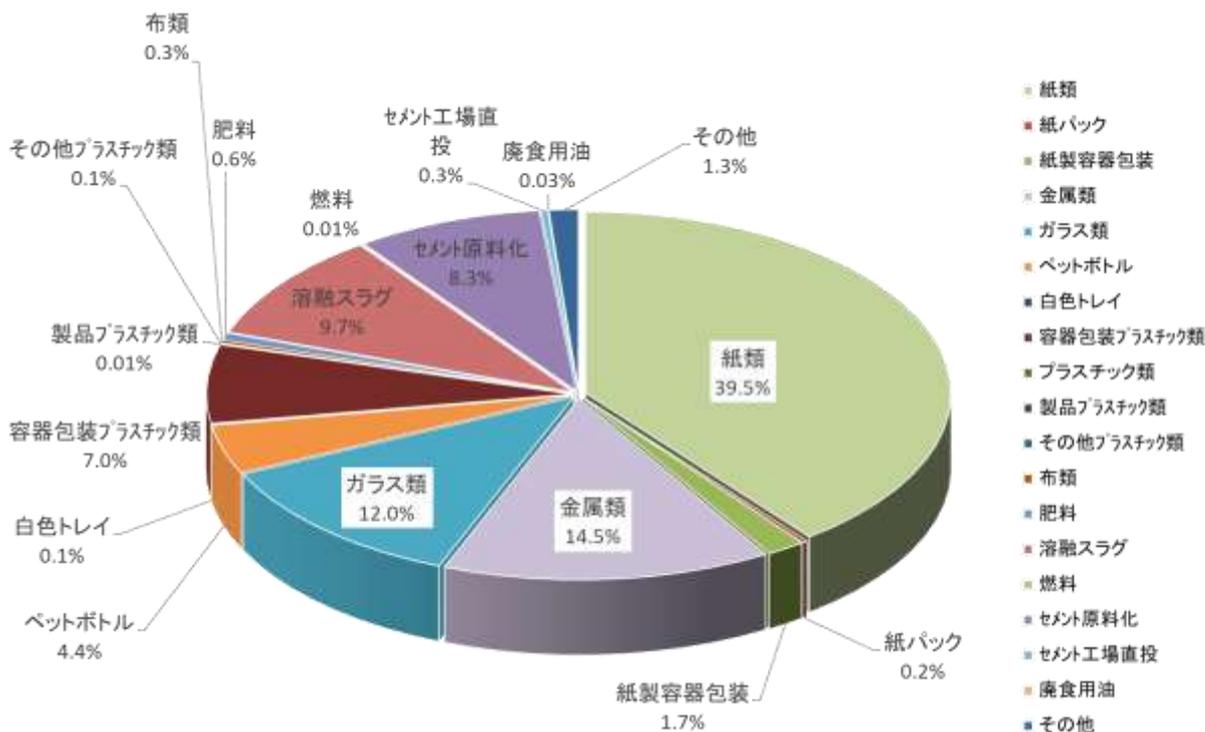


図-11 リサイクル品目別の割合 (令和4年度)

3 ごみ焼却施設の整備状況

(1) 焼却施設数及び処理能力

令和4年度末現在における県内のごみ焼却施設数は19施設であり、処理能力の合計は2,304トン/日である。このうち、焼却施設は16施設、溶融施設は3施設である。

なお、19施設中稼働しているのは14施設で、5施設は休止している。

また、19施設の処理能力の合計は2,304トン/日で、このうち、焼却施設は1,897トン/日、溶融施設は407トン/日である。

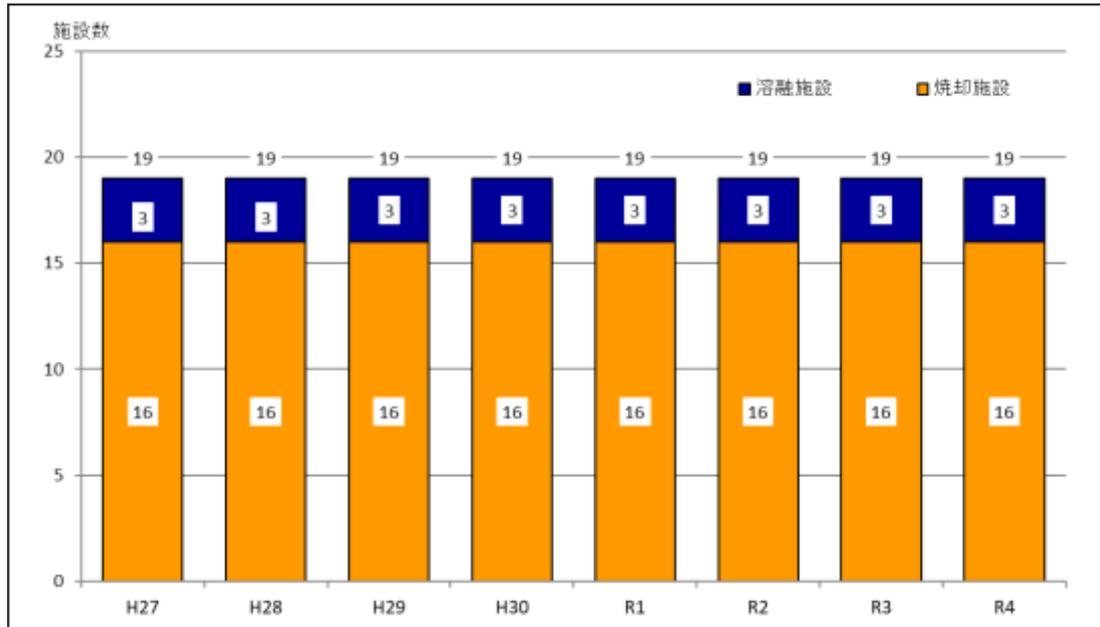


図-12 ごみ焼却施設の種類別施設数の推移

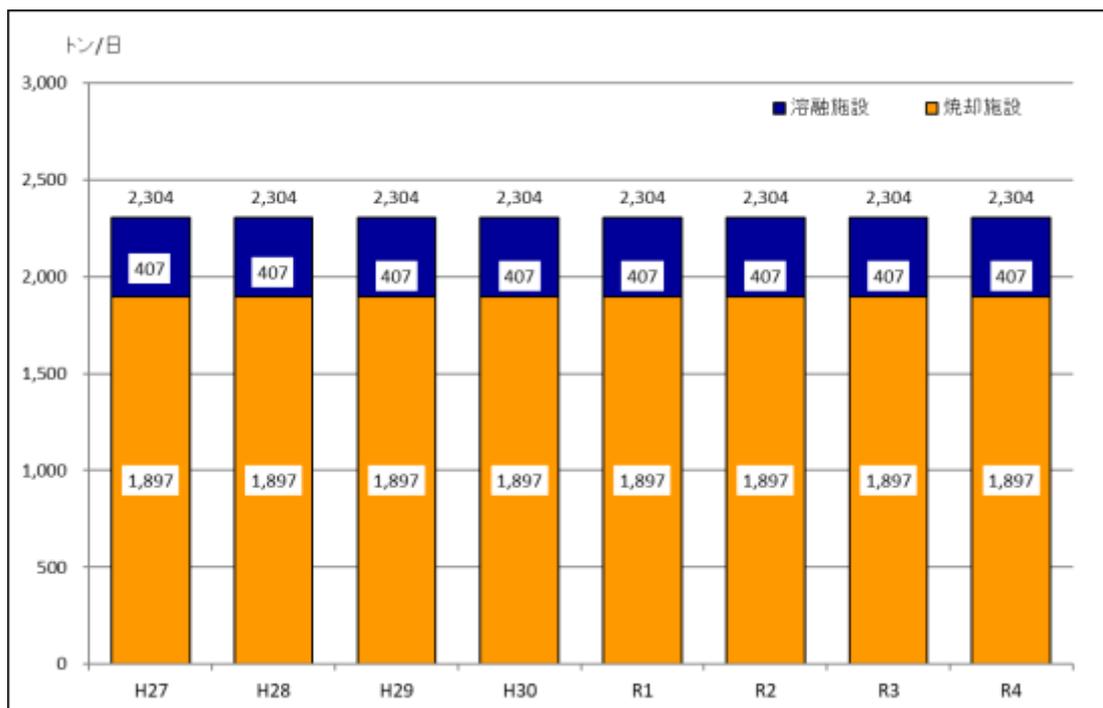


図-13 ごみ焼却施設の処理能力の推移

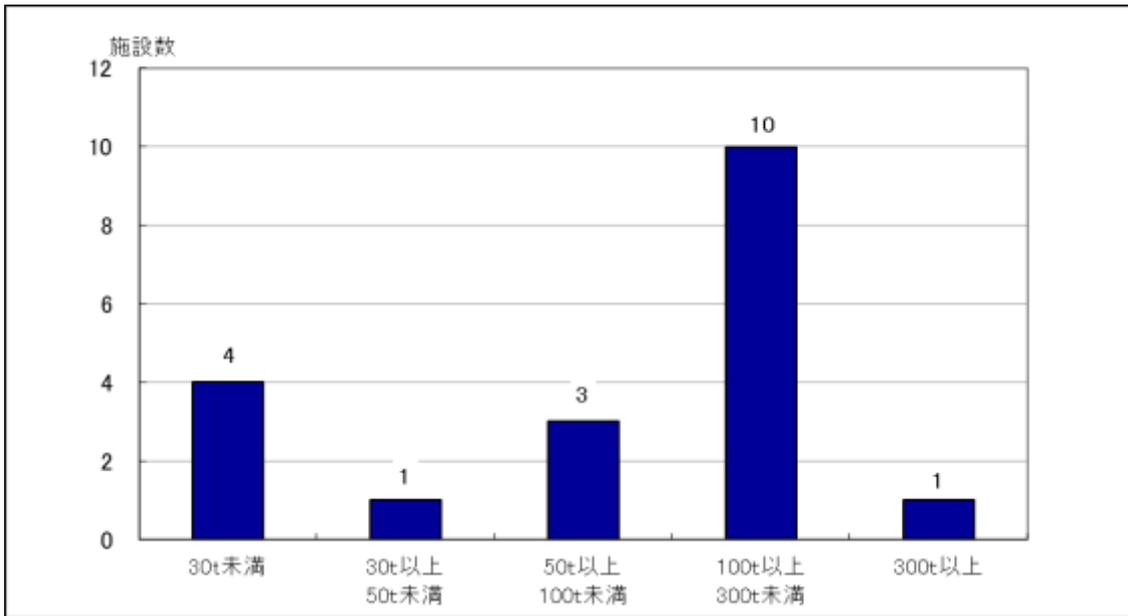


図-14 ごみ焼却施設の規模別施設数（令和4年度）

(2) 余熱利用の状況

焼却施設19施設のうち、**余熱の利用は14施設**で実施されており、施設内においては暖房や給湯に利用されている。また、施設外においては温水プール等への温水・熱供給、発電等に利用されている。

表-11 ごみ焼却施設の余熱利用状況（令和4年度）

余熱利用の状況	余熱利用あり								余熱利用なし
	場内温水	場外温水	場内蒸気	場外蒸気	場内発電	場外発電	その他		
施設数	14	12	2	1	0	6	5	0	5

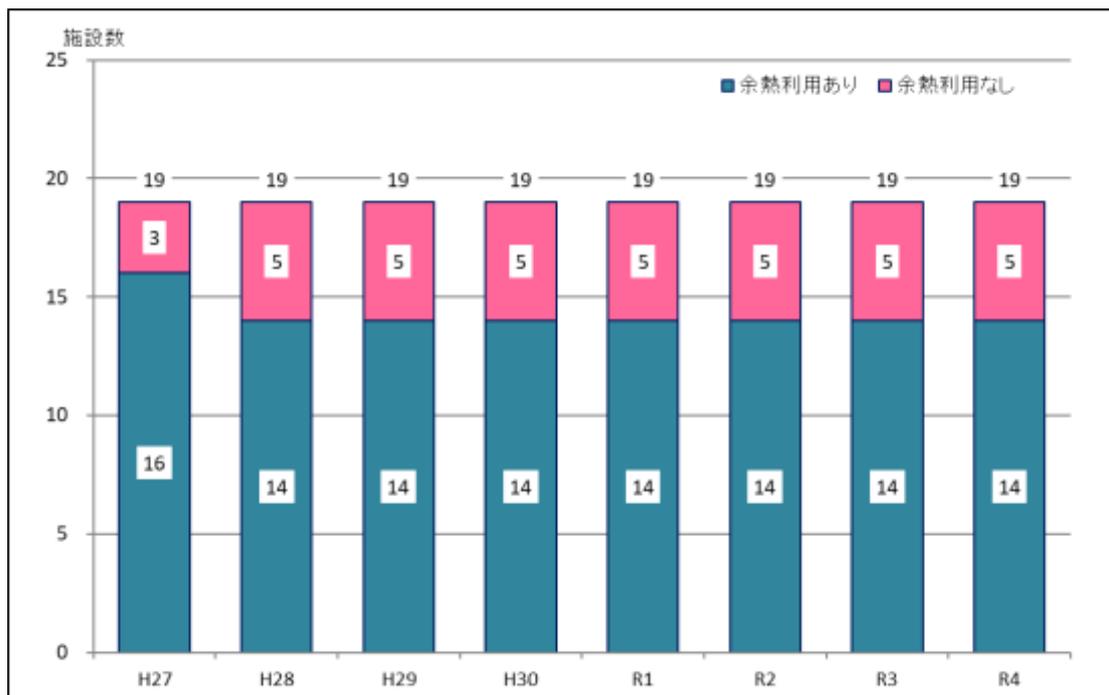


図-15 焼却施設における余熱利用の推移

(3) 発電の状況

発電設備を有する施設は**6施設**で、発電能力の合計は**13,440kW**である。また、総発電量は**78,491MWh**であり、約26,396世帯分の年間電力使用量に相当する。

また、発電能力は、6施設とも発電能力が5,000kW未満であり、そのうち3施設は、1,000kW以上2,000kW未満という比較的小規模な発電設備を有する施設である。

なお、6施設のうち、発電効率が10%以上の施設が4施設となっている。

※平成27年度一世帯当たりの電力消費量247.8kWh/月をもとに算出（電気事業連合会調べ）

表-12 ごみ焼却施設の発電の状況（令和4年度）

施設名	発電能力(kW)	発電効率(%)	総発電量(MWh)	年間処理量(t)
盛岡市クリーンセンター	1,570	5.8	10,528	65,118
盛岡・紫波地区環境施設組合 ごみ焼却施設	2,080	10.0	12,160	30,336
奥州金ヶ崎行政事務組合 胆江地区衛生センター	1,990	6.7	8,020	35,144
岩手中部広域行政組合 岩手中部クリーンセンター	4,100	17.8	29,233	54,696
岩手沿岸南部広域環境組合 沿岸南部クリーンセンター	2,500	14.5	11,974	27,125
滝沢・雫石環境組合 滝沢清掃センター	1,200	12.0	6,576	23,513
県計・平均	13,440	11.1	78,491	235,932

(4) 発電電力量

焼却施設（発電設備の有無を問わない）の年間処理量と、年間の総発電量から求められるごみ処理量当たりの発電電力量は、232kWh/トンであった。

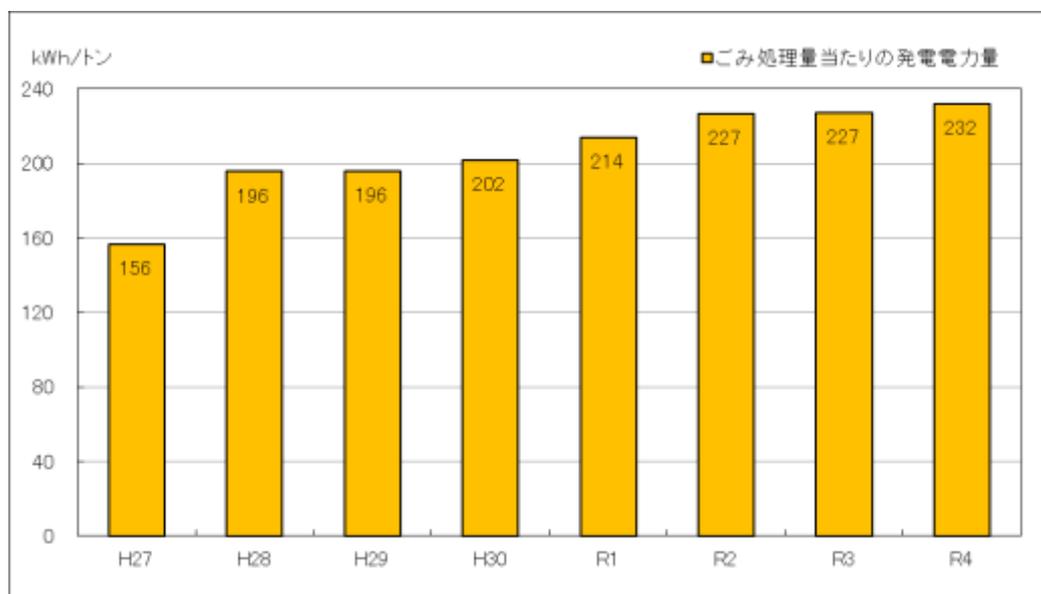


図-16 ごみ処理量当たりの発電電力量の推移

$$\text{※ごみ処理量当たりの発電電力量 (kWh/トン)} = \frac{\text{ごみ焼却施設における年間総発電電力量 (kWh)}}{\text{ごみ焼却施設におけるごみの年間処理量 (トン)}}$$

3 最終処分場の整備状況

(1) 残余容量と残余年数

令和4年度末現在、埋立中の一般廃棄物最終処分場は22施設あり、埋立を終了した施設は10施設である。また、残余容量の合計は587,698m³で、残余年数は13.1年である。

表-13 一般廃棄物最終処分場の施設数と残余年数の推移

年度	最終処分場数			埋立面積 (㎡)	全体容積 (㎡)	残余容量 (㎡)	残余年数 (年)	最終処分量 (トン)
	山間	平地	計					
H27	22	1	23	417,462	3,024,294	792,701	14.4	44,939
H28	22	1	23	417,462	3,024,294	782,245	15.7	40,609
H29	22	1	23	417,462	3,038,160	782,853	15.7	40,788
H30	22	1	23	417,462	3,038,160	747,280	14.8	41,305
R1	22	1	23	417,462	3,038,160	700,649	13.9	41,265
R2	22	1	23	417,462	3,038,160	652,068	14.1	37,829
R3	22	1	23	417,462	3,038,160	622,484	13.6	37,405
R4	21	1	22	411,569	3,011,299	587,698	13.1	36,656

※ 残余年数とは、新規の最終処分場が整備されず、当該年度の最終処分量により埋立てが行われた場合に埋立て処分が可能な期間（年数）をいい、以下の式により算出される。

$$\text{残余年数（年）} = \frac{\text{当該年度末の残余容量（m}^3\text{）}}{\text{当該年度の最終処分量（トン）} \div \text{埋立てごみ比重（埋立てごみ比重は 0.8163）}}$$

※ 最終処分量は、災害廃棄物の埋立て量を除く。

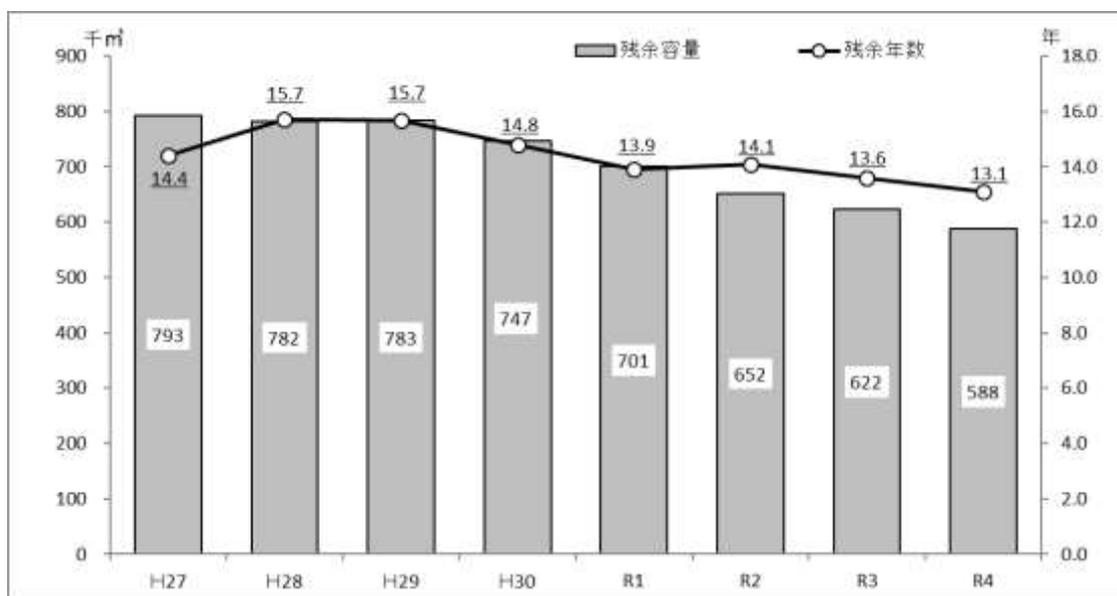


図-17 一般廃棄物最終処分場の残余容量と残余年数の推移

(2) 最終処分の広域移動の状況

令和4年度において、県内で発生した一般廃棄物で、最終処分を目的として県外の施設に搬出されたものは、最終処分量36,656トンのうち3,041トンで、全体の8.3%であった。

4 ごみ処理経費

令和4年度に市町村及び一部事務組合等がごみ処理に要した経費（市町村から一部事務組合等への組合分担金は含まない。）は、164億5千万円で、県民一人当たりの年間ごみ処理事業経費は13,777円であった。

ごみ処理事業経費のうち、処理施設や設備の建設・改良に要した経費は3億6千万円、処理及び維持管理に要した経費は155億6千万円で、県民一人当たりの年間処理及び維持管理費は13,032円であった。

表-14 ごみ処理経費の推移

項目	年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
ごみ処理事業経費合計(千円)		19,055,704	15,772,630	16,278,049	18,928,188	22,267,589	21,472,713	17,621,437	16,448,957
建設改良費(千円)		4,118,488	1,653,000	2,001,347	4,341,123	7,677,285	6,378,050	2,114,638	364,543
処理及び維持管理費(千円)		13,825,757	13,814,416	13,635,484	14,186,964	14,063,714	14,766,158	15,110,537	15,559,322
その他(千円)		1,111,459	305,214	641,218	400,101	526,590	328,505	396,262	525,092
収集人口(人)		1,291,352	1,279,875	1,266,552	1,252,038	1,238,207	1,223,946	1,209,697	1,193,904
県民一人当たりの年間ごみ処理事業経費(円)		14,756	12,324	12,852	15,118	17,984	17,544	14,567	13,777
県民一人当たりの年間処理及び維持管理費(円)		10,706	10,794	10,766	11,331	11,358	12,064	12,491	13,032

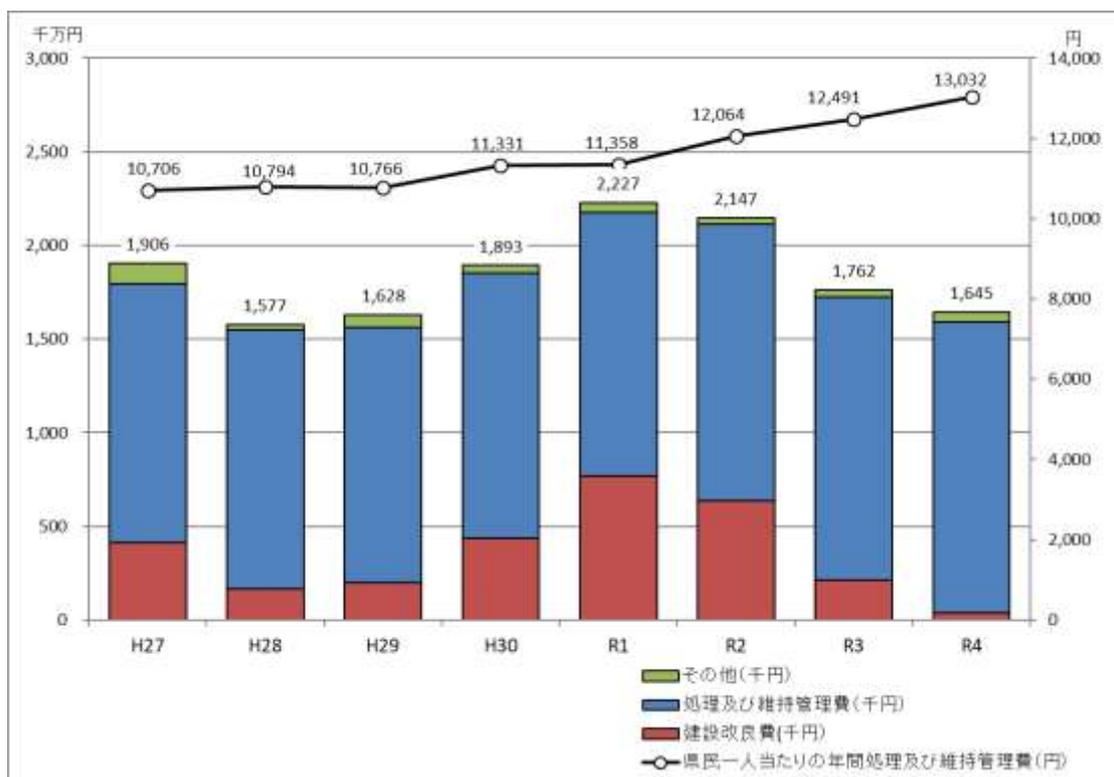


図-18 ごみ処理事業経費の推移

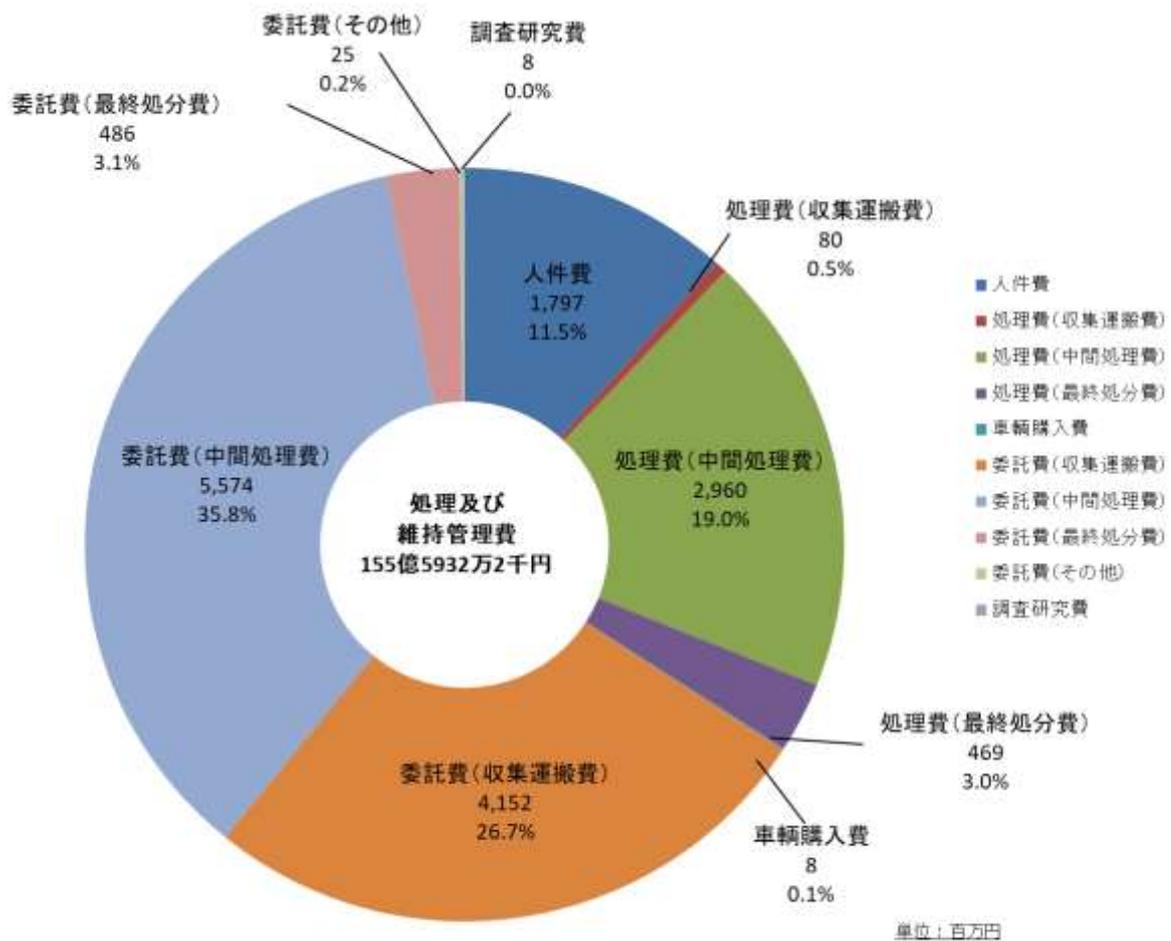


図-19 処理及び維持管理費の内訳（令和4年度）

II し尿処理

1 し尿の処理状況

(1) し尿処理量

令和4年度のし尿の処理量は、汲み取りし尿312,724kL、浄化槽等汚泥161,373kLで、し尿処理施設処理量は474,097kLであった。

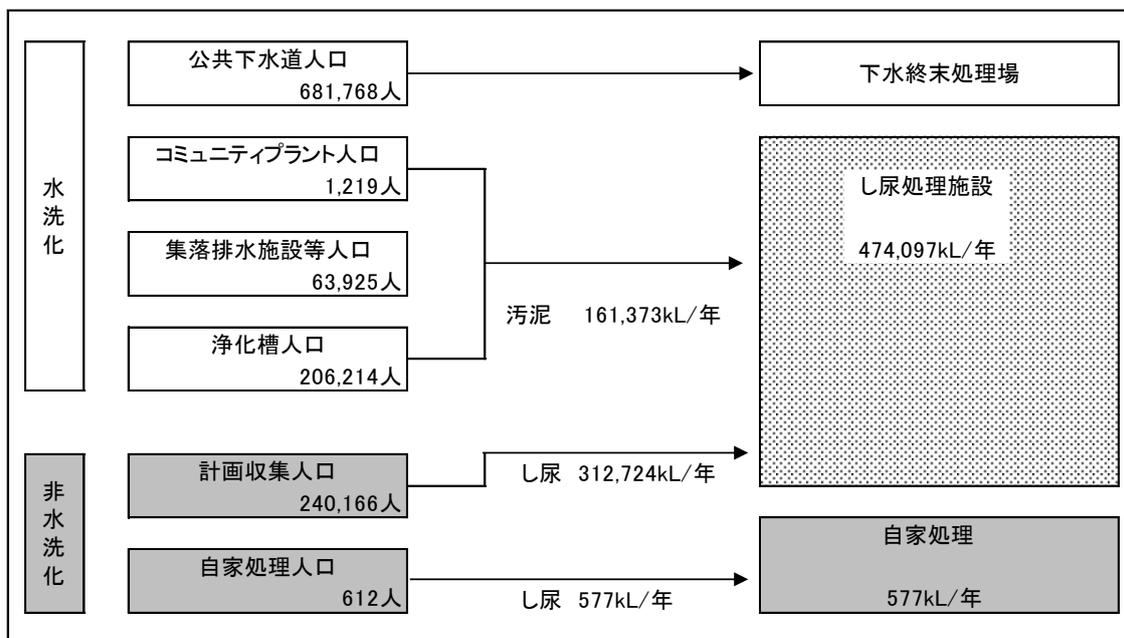


図-20 し尿処理のフロー（令和4年度）

表-15 し尿処理の系統の推移

(単位:人、%)

項目	年度		H27 (2015)		H28 (2016)		H29 (2017)		H30 (2018)		R1 (2019)		R2 (2020)		R3 (2021)		R4 (2022)		
	人口	構成	人口	構成	人口	構成	人口	構成	人口	構成	人口	構成	人口	構成	人口	構成	人口	構成	
人口	1,291,352	100.0	1,279,875	100.0	1,266,552	100.0	1,252,038	100.0	1,238,207	100.0	1,223,946	100.0	1,209,697	100.0	1,193,904	100.0			
水酸化人口	929,262	72.0	927,935	72.5	933,730	73.7	941,850	75.2	948,094	76.6	947,875	77.4	957,657	79.2	953,126	79.8			
公共下水道人口	647,945	50.2	655,527	51.2	664,116	52.4	668,630	53.4	675,645	54.6	678,797	55.5	681,901	56.4	681,768	57.1			
コミュニティプラント人口	1,721	0.1	1,574	0.1	1,589	0.1	1,576	0.1	1,607	0.1	1,398	0.1	1,208	0.1	1,219	0.1			
集落排水施設等人口													66,104	5.5	63,925	5.4			
浄化槽人口	279,596	21.7	270,834	21.2	268,025	21.2	271,644	21.7	270,842	21.9	267,680	21.9	208,444	17.2	206,214	17.3			
(合併処理浄化槽人口)	235,775	18.3	235,807	18.4	244,302	19.3	230,886	18.4	230,753	18.6	241,579	19.7	196,336	16.2	194,763	16.3			
(単独処理浄化槽人口)	43,821	3.4	35,027	2.7	23,723	1.9	40,758	3.3	40,089	3.2	26,101	2.1	12,108	1.0	11,451	1.0			
非水酸化人口	362,090	28.0	351,940	27.5	332,822	26.3	310,188	24.8	290,113	23.4	276,071	22.6	252,040	20.8	240,778	20.2			
計画収集人口	360,857	27.9	351,010	27.4	331,913	26.2	309,328	24.7	289,419	23.4	275,416	22.5	251,403	20.8	240,166	20.1			
自家処理人口	1,233	0.1	930	0.1	909	0.1	860	0.1	694	0.1	655	0.1	637	0.1	612	0.1			

表-16 し尿処理量の推移

(単位:kL、%)

項目	年度		H27 (2015)		H28 (2016)		H29 (2017)		H30 (2018)		R1 (2019)		R2 (2020)		R3 (2021)		R4 (2022)		
	量	構成	量	構成	量	構成	量	構成	量	構成	量	構成	量	構成	量	構成	量	構成	
し尿処理量	551,078	100.0	539,846	100.0	535,223	100.0	525,943	100.0	517,087	100.0	505,323	100.0	487,411	100.0	474,674	100.0			
し尿処理施設	549,995	99.8	539,091	99.9	534,455	99.9	525,190	99.9	516,486	99.9	504,764	99.9	486,836	99.9	474,097	99.9			
汲み取りし尿	382,943	69.5	374,495	69.4	367,512	68.7	353,524	67.2	345,702	66.9	337,812	66.9	324,429	66.6	312,724	65.9			
浄化槽汚泥	167,052	30.3	164,596	30.5	166,943	31.2	171,666	32.6	170,784	33.0	166,952	33.0	162,407	33.3	161,373	34.0			
下水道投入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0			
自家処理	1,083	0.2	755	0.1	768	0.1	753	0.1	601	0.1	559	0.1	575	0.1	577	0.1			

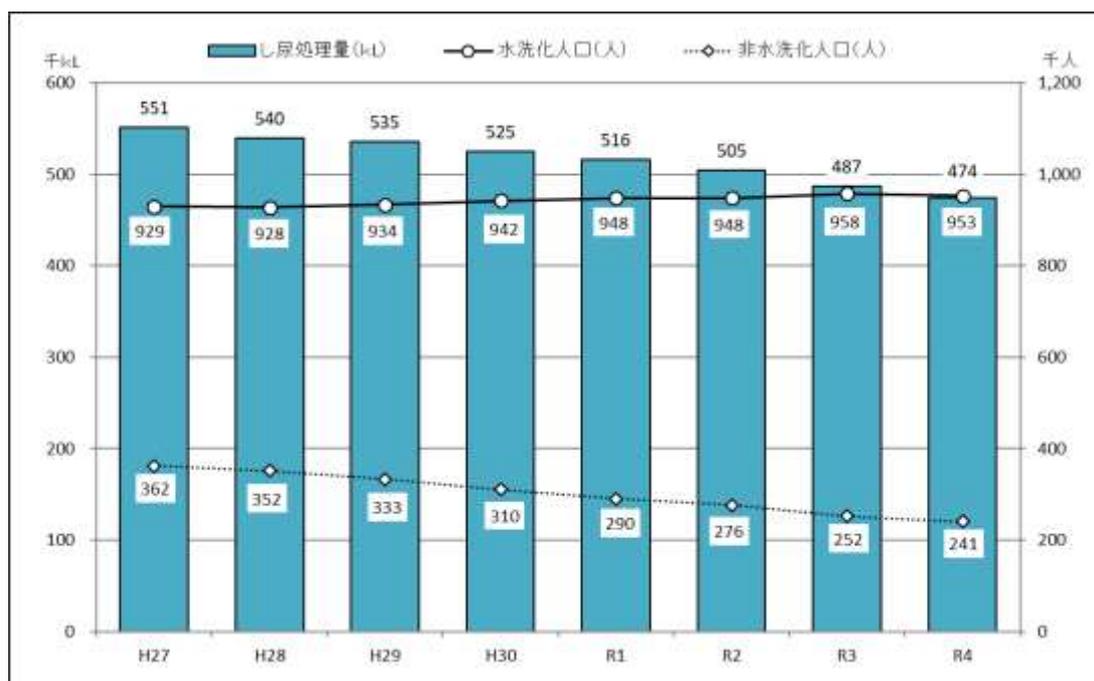


図-21 し尿処理量と水洗化人口・非水洗化人口の推移

(2) し尿処理体制

令和4年度におけるし尿の処理は、主に複数の市町村で構成された一部事務組合又は広域連合（以下「一部事務組合等」という。）が実施している。一部事務組合等における処理量の推移は次のとおり。

なお、令和4年3月1日から、久慈広域連合の久慈地区汚泥再生処理センターが新規稼働している。

表-17 し尿処理施設ごとの処理量

(単位:kL/年度)

年度	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
一部事務組合等名								
久慈広域連合	40,522	40,079	39,725	39,811	39,980	38,653	37,589	38,612
二戸地区広域行政事務組合	32,731	32,380	32,712	32,898	32,397	31,833	31,033	30,191
盛岡北部行政事務組合	31,897	30,885	30,988	31,808	30,525	30,364	30,211	29,942
盛岡地区衛生処理組合	38,688	37,347	36,384	45,254	43,758	43,555	41,884	41,236
紫波、稗貫衛生処理組合	35,645	34,876	34,627	-	-	-	-	-
北上地区広域行政組合	65,915	64,902	63,206	71,412	70,462	68,704	66,506	64,757
遠野市	18,573	17,999	18,191	18,187	17,399	17,105	17,024	16,969
奥州金ヶ崎行政事務組合	72,590	72,293	72,095	70,591	70,228	68,322	67,805	68,282
一関地区広域行政組合	82,444	81,259	79,031	77,634	77,628	77,387	74,387	73,137
宮古地区広域行政組合	50,260	49,589	48,337	46,480	45,241	44,205	40,516	38,806
気仙広域連合	52,137	49,208	51,721	48,532	47,757	46,035	44,076	39,890
釜石大槌地区行政事務組合	28,416	28,106	27,434	27,380	25,952	23,620	19,356	19,004
紫波町	-	-	-	9,539	9,675	9,713	15,270	9,185
合計	549,818	538,923	534,451	519,526	511,002	499,496	485,657	470,011

2 し尿の処理経費

令和4年度に市町村及び一部事務組合等がし尿処理に要した経費（市町村から一部事務組合等への分担金は除く。）は、**43億5千万円**であった。このうち、処理施設や設備の建設・改良に要した経費は約2千万円、処理及び維持管理に要した経費は42億2千万円であった。

なお、**県民**（計画収集人口）一人当たりの年間処理及び維持管理費は**17,569円**であった。

表-18 し尿の処理経費の推移

項目	年度	(単位:千円)							
		H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
建設・改良費		39,305	726,957	508,773	30,841	267,579	405,132	2,771,240	18,370
処理及び維持管理費		3,971,039	3,890,895	3,783,538	3,870,586	4,403,322	4,163,600	3,882,237	4,219,444
その他		212,072	180,048	65,363	69,992	42,188	53,105	49,160	109,230
合 計		4,222,416	4,797,900	4,357,674	3,971,419	4,713,089	4,621,837	6,702,637	4,347,044
計画収集人口		360,857	351,010	331,913	309,328	289,419	275,416	251,403	240,166
県民一人当たりの年間処理及び維持管理費		11,004	11,085	11,399	12,513	15,214	15,117	15,442	17,569

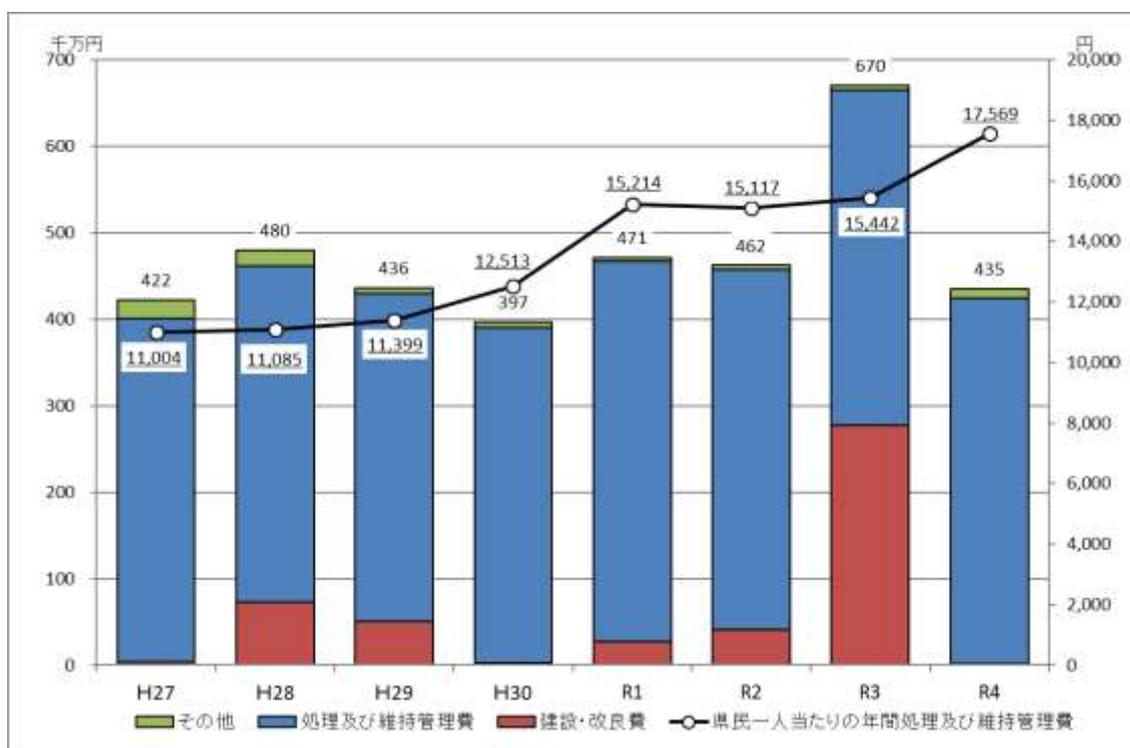


図-22 し尿処理経費の推移